

ガネフォ参加者の思いにふれて

中日新聞ポッドキャスト

「あしたのたね」担当

浅井 弘美

この度は、新興国競技大会（ガネフォ）出場60周年を迎えられ、誠にありがとうございます。

歴史を後世に語り継いでいくことが年々難しくなる中、参加者同士が継続して集い、体験談も残してこられましたことに対し、深く敬意を表します。

私はちょうど1年ほど前、友人を介して、大会の存在を初めて知りました。メディアに在籍している身ではありますが、恥ずかしながら、大会について知識がありませんでした。調べると、東京オリンピックの前年にインドネシアで開催されたことや、政治的な問題がある中で自らの処分もいとわず、参加された選手がいるということを知りました。社会的な動きがあれば、弊紙にも掲載されていると思い、過去の記事を検索したものの見つからず、世にあまり知られていない大会であったことに驚きました。ならば、その歴史の証人となる元選手の方にお会いして経験談を記録していくことは、メディアの役割でもあると感じました。

2022年の年末から、元選手の方々にお話を伺っています。大会のことを昨日のことのよう思い出してお話しいただき、スクラップブックに丁寧に貼られた当時のお写真を拝見する中で、活字ではなく、私が新聞社で担当するポッドキャストで配信をさせていただいたほうが、より熱量が伝わり、リスナーの皆さんに思いが届くのではないかと感じました。

ポッドキャストはインターネットを使ったラジオ番組です。欧米では新たな

報道の形として定着しています。日本でも近年、ポッドキャストに参入する報道機関が増えつつあり、中日新聞におきましても、2022年11月に開設したところです。私が担当する番組では、記者が取材したニュースを深く掘り下げ、記事に盛り込めなかった思いやエピソードを語る番組のほか、さまざまなテーマをもとに取材対象者に密着する音声ルポにも挑戦しています。音声は表現に幅があるため、人の温度感が伝わります。その熱量は時に活字以上にダイレクトに人の心に届くことを実感してきました。それゆえ、大会の記憶は、皆さんの声とともにポッドキャストで残していくことが、より多くの人々の心に残るのではないかと考えました。

この原稿が記念誌に盛り込まれ、完成するころには、皆さんから伺ったお話の編集作業に追われていることでしょう。国内外のリスナーの方へ、皆さんの熱い思い、経験がお伝えできるよう、番組をつくっていきたいと思います。